

前回までの研究会意見を踏まえて作成した、多様な主体同士の国土情報共有サイト



国土のモニタリングとは？

- 「国土のモニタリング」の認知度を高める。
- 「国土のモニタリング」システムの目的・役割・概要の説明

分析集・分析ツール

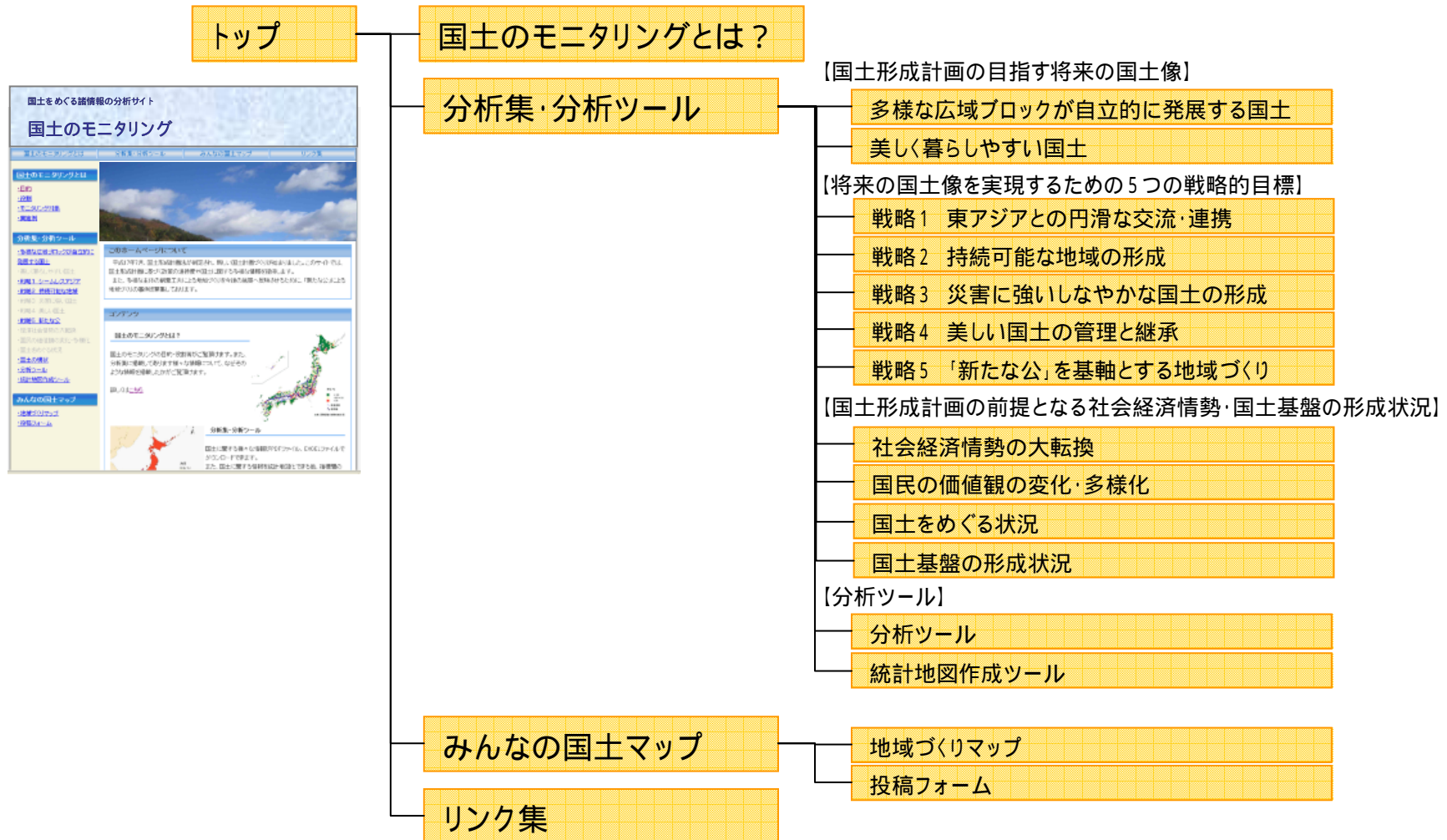
- 国土形成計画の進捗度を表す情報の公開・利用を通じて国民の関心を高める。
- 国土に関する様々な情報がPDFとEXCELファイルでダウンロード可能
- 分析集のデータを使って、指標同士の相関関係が分析可能
- 分析集のデータを使って、統計地図が作成可能

リンク集

- 各情報の出展元・原データへのアクセスを明確にし、サイトの利用価値を高める。
- 分析集の出典元となる情報へのご案内。

みんなの国土マップ

- 各自の取組が、Web上で公開される仕組みで国民の関心を高める。
- 地域づくりの事例集が閲覧可能
- 地域づくり事例を誰でも投稿可能



- 国土形成計画の推進状況を表す情報の公開・利用を通じて国民の関心を高める。
国土形成計画(全国計画)に対応した国土の情報が閲覧可能。

国土のモニタリング

- 国土のモニタリングとは
- 分析集・分析ツール
- みんなの国土マップ
- リンク集

国土のモニタリングとは

- 目的
- 役割
- モニタリング対象
- 実施例

分析集・分析ツール

- 多様な広域ブロックが自立的に発展する国土
- 美しく暮らしやすい国土
- 戦略1 シームレスアジア
- 戦略2 持続可能な地域
- 戦略3 災害に強い国土
- 戦略4 美しい国土
- 戦略5 新たな公
- 経済社会情勢の大転換
- 国民の価値観の変化・多様化
- 国土をめぐる状況
- 国土の現状
- 分析ツール
- 統計地図作成ツール

みんなの国土マップ

- 地域づくりマップ
- 投稿フォーム

国土形成計画の目指す将来の国土像

国土形成計画では、「多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土」を目指しています。ここではその実現に向けた取り組み情報をお知らせ致します。

多様な広域ブロックが
自立的に発展する国土

美しく暮らし易い国土

将来の国土像を実現するための5つの戦略的目標

国土形成計画では、将来の国土像の実現のために以下の5つの戦略的目標を掲げています。ここでは、5つの戦略目標毎にその実現に向けた取り組み状況をお知らせ致します。

【戦略1】
『東アジアとの円滑な
交流・連携』

【戦略2】
『持続可能な地域の形成』

【戦略3】
『災害に強い
しなやかな国土の形成』

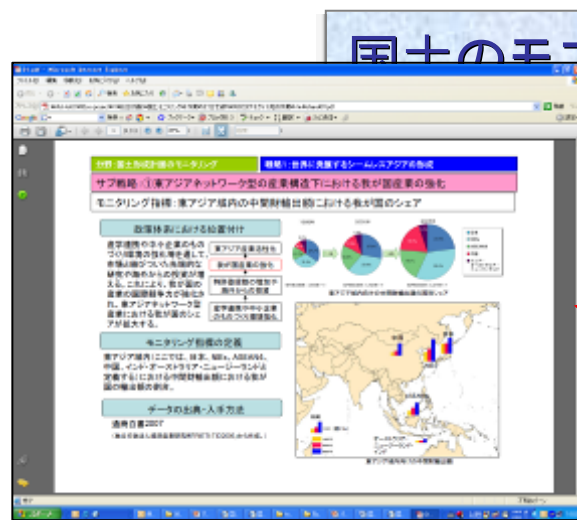
【戦略4】
『美しい国土の
管理と継承』

【戦略5】
『「新たな公」を
基軸とする地域づくり』

国土形成計画の前提となる社会経済情勢・国土の現状

分析集(指標選択)

閲覧したい指標のPDF、EXCELマークをクリックすると、それぞれのデータが閲覧可能。



国土のモニタリング

分析集・分析ツール

みんなの国土マップ

リンク集

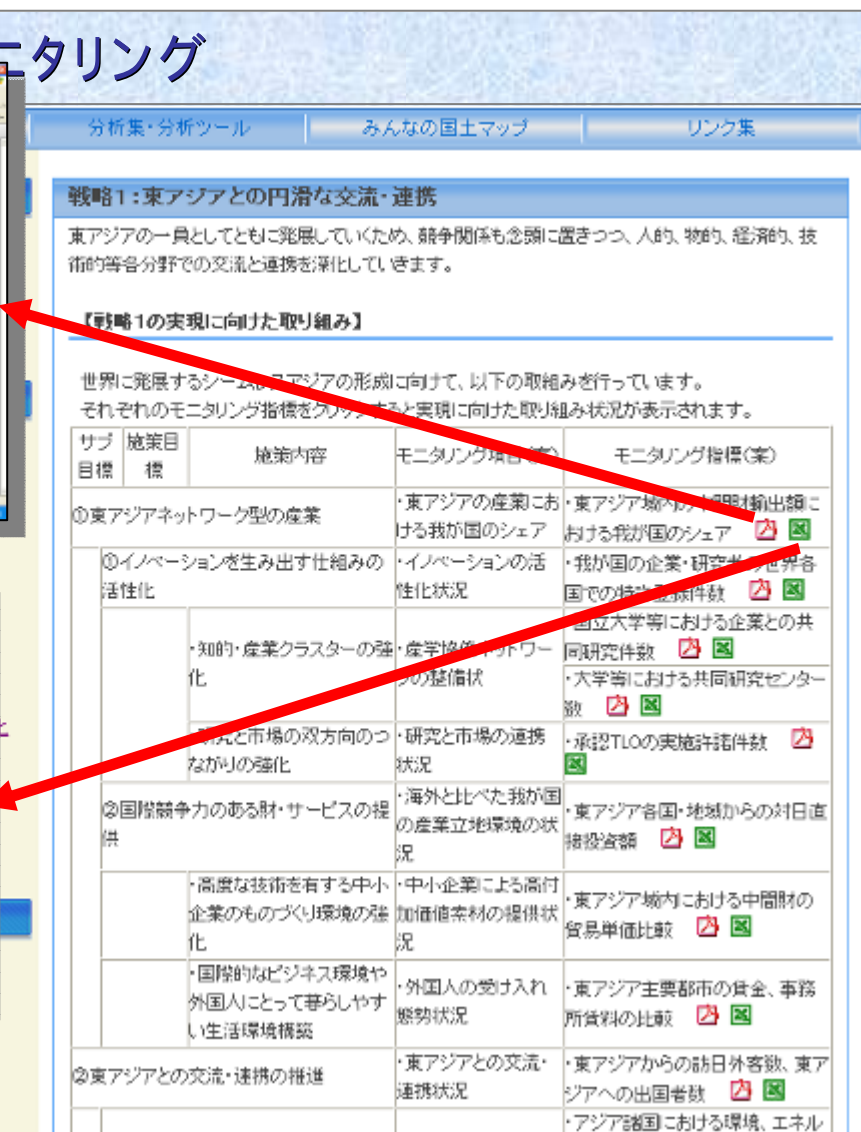
戦略1: 東アジアとの円滑な交流・連携

東アジアの一員としてともに発展していくため、競争関係も念頭に置きつつ、人的、物的、経済的、技術的等各分野での交流と連携を深化していきます。

【戦略1の実現に向けた取り組み】

世界に発展するシー・アジアの形成に向けて、以下の取り組みを行っています。それぞれのモニタリング指標をクリックすると実現に向けた取り組み状況が表示されます。

サブ目標	施策目標	施策内容	モニタリング項目等	モニタリング指標(案)
① 東アジアネットワーク型の産業			東アジアの産業における我が国のシェア	東アジア域内からの貿易輸出額における我が国のシェア  
① イノベーションを生み出す仕組みの活性化			イノベーションの活性化状況	我が国の企業・研究機関が世界各国での特許出願件数   国立大学等における企業との共同研究件数   大学等における共同研究センター数   研究と市場の双方方向のつながりの強化   研究と市場の連携状況   承認TLOの実施件数  
② 国際競争力のある財・サービスの提供			海外と比べた我が国の産業立地環境の状況	東アジア各国・地域からの対日直接投資額   東アジア域内における中間財の貿易単価比較   中小企業による高付加価値素材の提供状況   外国人の受け入れ態勢状況   東アジア主要都市の賃金、事務所賃料の比較  
② 東アジアとの交流・連携の推進			東アジアとの交流・連携状況	東アジアからの訪日外客数、東アジアへの出国者数   アジア諸国における環境、エネルギー



分析集・分析ツール

みんなの国土マップ

リンク集

戦略1: 東アジアとの円滑な交流・連携

東アジアの一員としてともに発展していくため、競争関係も念頭に置きつつ、人的、物的、経済的、技術的等各分野での交流と連携を深化していきます。

【戦略1の実現に向けた取り組み】

世界に発展するシー・アジアの形成に向けて、以下の取り組みを行っています。それぞれのモニタリング指標をクリックすると実現に向けた取り組み状況が表示されます。

サブ目標	施策目標	施策内容	モニタリング項目等	モニタリング指標(案)
① 東アジアネットワーク型の産業			東アジアの産業における我が国のシェア	東アジア域内からの貿易輸出額における我が国のシェア  
① イノベーションを生み出す仕組みの活性化			イノベーションの活性化状況	我が国の企業・研究機関が世界各国での特許出願件数   国立大学等における企業との共同研究件数   大学等における共同研究センター数   研究と市場の双方方向のつながりの強化   研究と市場の連携状況   承認TLOの実施件数  
② 国際競争力のある財・サービスの提供			海外と比べた我が国の産業立地環境の状況	東アジア各国・地域からの対日直接投資額   東アジア域内における中間財の貿易単価比較   中小企業による高付加価値素材の提供状況   外国人の受け入れ態勢状況   東アジア主要都市の賃金、事務所賃料の比較  
② 東アジアとの交流・連携の推進			東アジアとの交流・連携状況	東アジアからの訪日外客数、東アジアへの出国者数   アジア諸国における環境、エネルギー

- 動きのあるサイト機能で、当サイトの利用意欲を促進。
相関関係を分析したい2つの指標を選択し、分析開始ボタンをクリック。

国土のモニタリング

- 国土のモニタリングとは
- 分析集・分析ツール
- みんなの国土マップ
- リンク集

国土のモニタリングとは

- 目的
- 役割
- モニタリング対象
- 実施例

分析集・分析ツール

- 多様な広域ブロックが自立的に発展する国土
- 美しく暮らしやすい国土
- 戦略1 シームレスアジア
- 戦略2 持続可能な地域
- 戦略3 災害に強い国土
- 戦略4 美しい国土
- 戦略5 新たな公
- 経済社会情勢の大転換
- 国民の価値観の変化・多様化
- 国土をめぐる状況
- 国土の現状
- 分析ツール
- 統計地図作成ツール

みんなの国土マップ

- 地図づくりマップ
- 投稿フォーム

国土のモニタリング分析ツール

ここでは、国土のモニタリング分析集でご紹介した指標同士の関連性(相関関係)が分析できます。これにより、戦略的目標の達成に向けた施策毎の影響度を調べるすることができます。

関係性を分析する2つの指標を選んで下さい。

第1指標

- 戦略的目標
戦略1 シームレスアジア
- サブ指標
①我が国の産業強化
- 施策目標・内容
①イノベーションの活性化
- モニタリング指標
世界各国での特許登録数

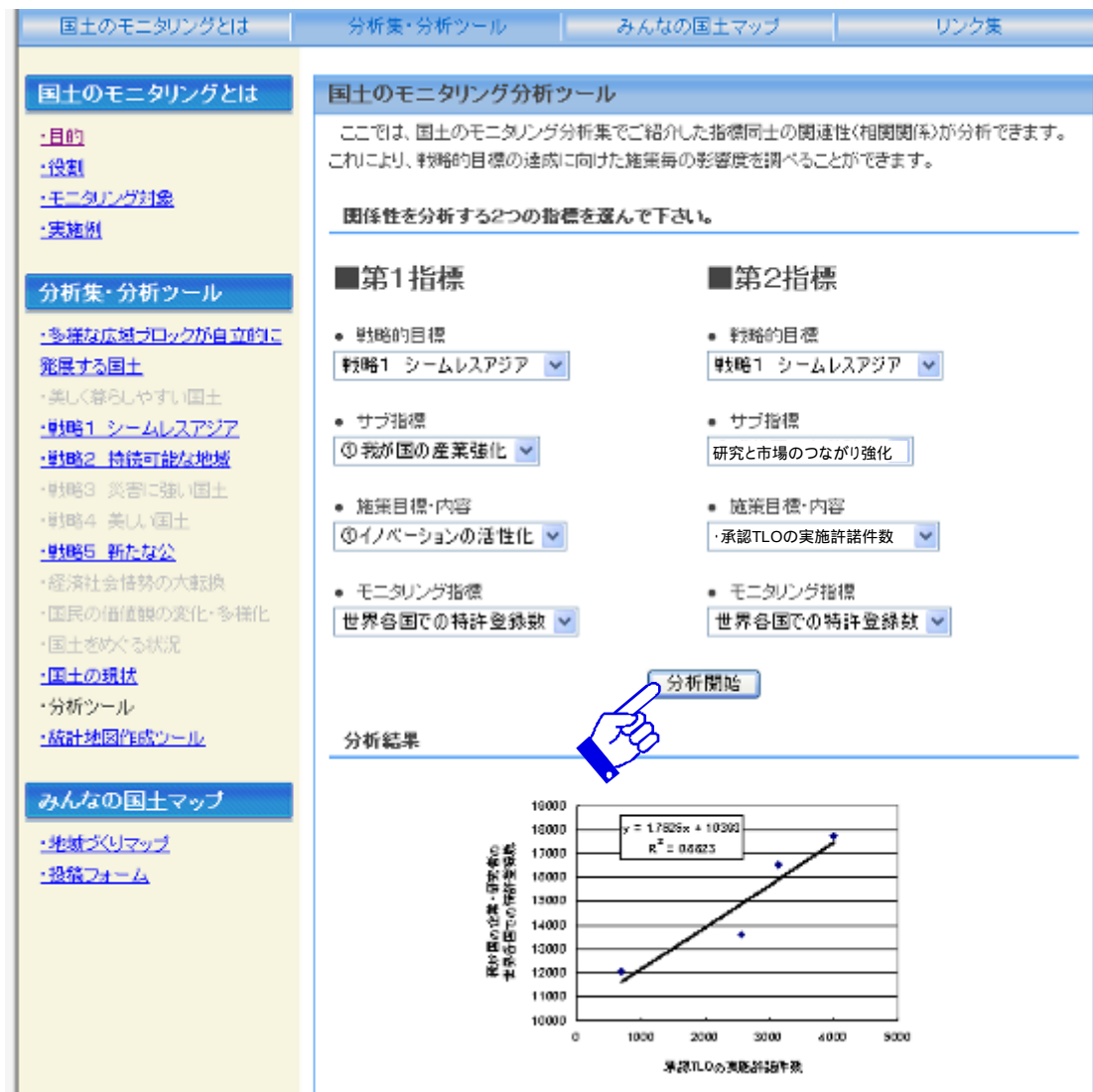
第2指標

- 戦略的目標
戦略1 シームレスアジア
- サブ指標
研究と市場のつながり強化
- 施策目標・内容
承認TLOの実施許諾件数
- モニタリング指標
世界各国での特許登録数

分析開始

Copyright 2008 Ministry of Land, Infrastructure and Transport. All rights reserved.

- 動きのあるサイト機能で、当サイトの利用意欲を促進。
 相関分析結果が作図される。



- 動きのあるサイト機能 + 情報の可視化で、当サイトの利用意欲を促進。
統計地図を作成したい指標・年度等を選択するし、分析開始ボタンをクリック。

国土のモニタリングとは

国土のモニタリングとは

[・目的](#)
[・役割](#)
[・モニタリング対象](#)
[・実施例](#)

分析集・分析ツール

[・多様な広域ブロックが自立的に
発展する国土](#)
[・美しく暮らしやすい国土](#)
[・戦略1 シームレスアジア](#)
[・戦略2 持続可能な地域](#)
[・戦略3 災害に強い国土](#)
[・戦略4 美しい国土](#)
[・戦略5 新たな公](#)
[・経済社会情勢の大転換](#)
[・国民の価値観の変化・多様化](#)
[・国土をめぐる状況](#)
[・国土の現状](#)
[・分析ツール](#)
[・統計地図作成ツール](#)

分析集・分析ツール

統計地図作成ツール

ここでは、モニタリング「分析集」でご紹介したデータにより統計地図が作成できます。
統計地図を作成したい指標・年度等を選択して下さい。

指標と年度・メッシュ単位を選んで下さい。

■指標

- 大分類
国土像のモニタリング
- 中分類
ブロック間格差
- 小分類
一人当たり所得

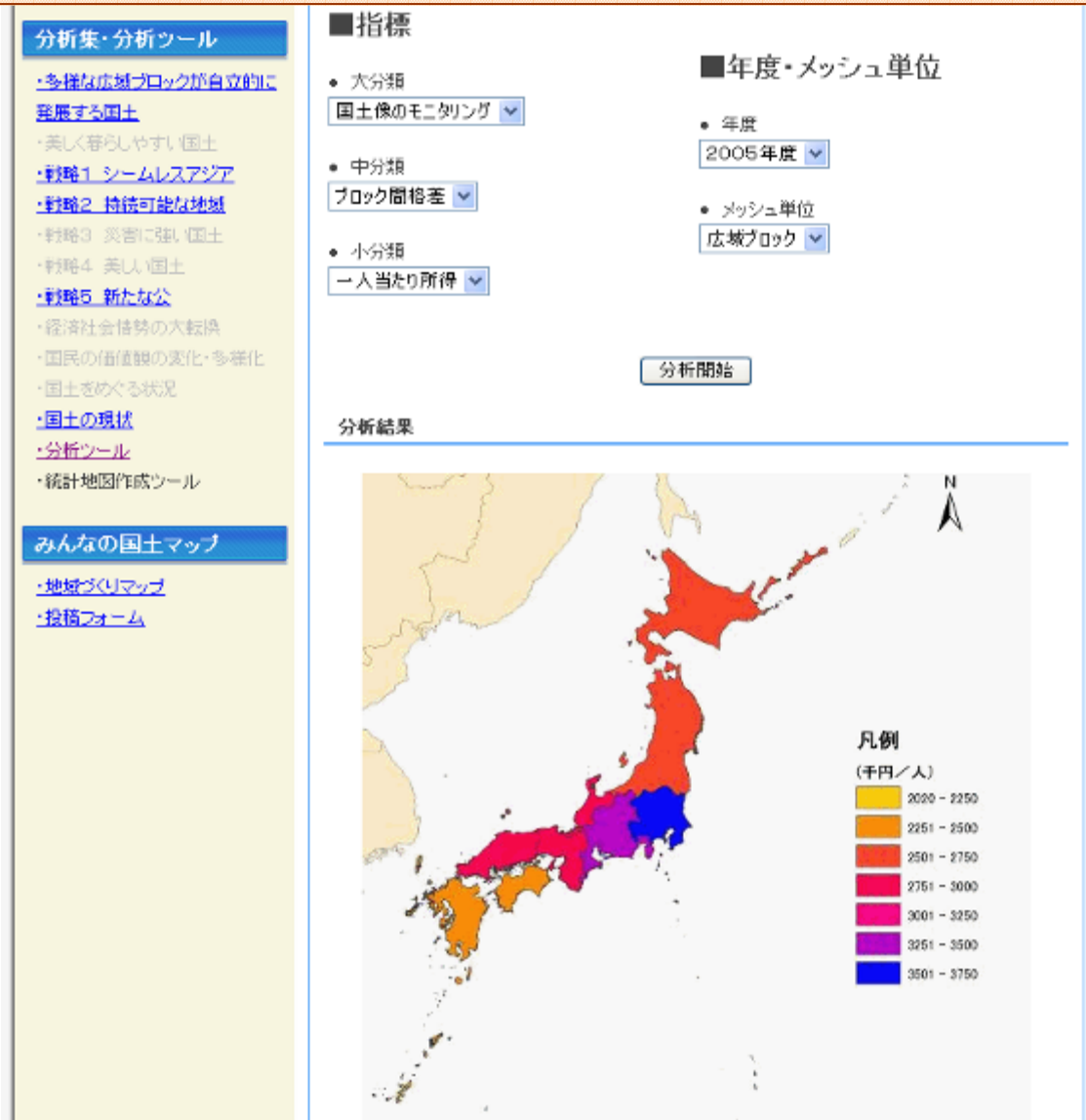
■年度・メッシュ単位

- 年度
2005年度
- メッシュ単位
広域ブロック

分析開始

統計地図作成ツール

- 動きのあるサイト機能 + 情報の可視化で、当サイトの利用意欲を促進。
統計地図が閲覧可能。



みんなの国土マップ

- 各自の取組が、Web上で公開される仕組みで国民の関心を高める。
- ・国土形成計画を身近に感じてもらうために、国土形成計画の戦略目標の1つである「新たな公」による地域づくりが書き込める機能を追加。

国土のモニタリングとは

分析集・分析ツール

みんなの国土マップ

リンク集

国土のモニタリングとは

- ・[国土形成計画とは？](#)
- ・[国土のモニタリングの目的](#)
- ・[国土のモニタリングの役割](#)

分析集・分析ツール

- ・[多様な広域ブロックが自立的に発展する国土](#)
- ・美しく暮らしやすい国土
- ・[戦略1 シームレスアジア](#)
- ・[戦略2 持続可能な地域](#)
- ・[戦略3 災害に強い国土](#)
- ・[戦略4 美しい国土](#)
- ・[戦略5 新たな公](#)
- ・[経済社会情勢の大転換](#)
- ・[国民の価値観の変化・多様化](#)
- ・[国土をめぐる状況](#)
- ・[国土の現状](#)
- ・[分析ツール](#)
- ・[統計地図作成ツール](#)

みんなの国土マップ

ここでは、国土のモニタリング分析集で示したような統計情報だけでは把握できない、新たな国土づくりの事例を紹介していきます。

その一例として、「[新たな公](#)」による取組み事例を誰でも閲覧・投稿することができます。

「新たな公」による
地域づくり事例集

「新たな公」による
地域づくり投稿フォーム



地域づくりマップ

- 各自の取組が、Web上で公開される仕組みで国民の関心を高める。
- ・ 多様な主体による地域づくりの取組情報の共有。

国土のモニタリングとは

国土のモニタリングとは

- ・ [国土形成計画とは？](#)
- ・ [国土のモニタリングの目的](#)
- ・ [国土のモニタリングの役割](#)

分析集・分析ツール

- ・ [多様な広域ブロックが自立的に発展する国土](#)
- ・ [美しく暮らしやすい国土](#)
- ・ [戦略1 シームレスアジア](#)
- ・ [戦略2 持続可能な地域](#)
- ・ [戦略3 災害に強い国土](#)
- ・ [戦略4 美しい国土](#)
- ・ [戦略5 新たな公](#)
- ・ [経済社会情勢の大転換](#)
- ・ [国民の価値観の変化・多様化](#)
- ・ [国土をめぐる状況](#)
- ・ [国土の現状](#)
- ・ [分析ツール](#)
- ・ [統計地図作成ツール](#)

みんなの国土マップ

みんなの国土マップ

ここでは、国土のモニタリング分析集で示したような統計情報だけでは把握できない、新たな国土づくりの事例を紹介していきます。

その一例として、「新たな公」による取組事例を誰でも閲覧・投稿することができます。

朝倉台安心・安全ネット
「朝倉台安心・安全ネットワーク」によるコミュニティバス試験運行に関する行政との協働

ながの村
「ながの村」と行政との協働による都市交通事業の展開

NPO法人「伊万里はちがめプラン」
NPO法人「伊万里はちがめプラン」が中心となった生ゴミの堆肥化による循環型地域社会の形成

磐田市アダプト・ロード合意団体
住民と行政の協働による道路の環境・機能維持管理「磐田市アダプト・ロード制度」(現：磐田市まち美化パートナー制度)

NPO法人「三重難病連」
企画段階から難病患者やその家族が参加

南那珂まるごと自然博物館推進協議会
「南那珂まるごと自然博物館推進協議会」による地域資源を活用した広域連携プロジェクト

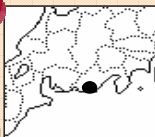
住民と行政の協働による道路の環境・機能維持管理「磐田市アダプト・ロード制度(現:磐田市まち美化パートナー制度)」

静岡県磐田市

団体概要

平成19年2月現在

団体名	磐田市アダプト・ロード 合意団体
構成員	21団体(約200人)
設立時期	平成18年4月



活動状況
(ガードパイプ塗装状況)
(資料提供: 磐田市道路
河川課)



活動概要

●活動開始時期: 平成18年4月

●活動内容:

磐田市アダプトロード制度(現: 磐田市まち美化パートナー制度)は、道路(現在は公共施設全域)を子供に見立て、市民グループ等がその里親として一定区間の清掃や簡易補修などを行ない、磐田市がそれを支援する取り組みであり、市民と行政とが合意に基づき互いの役割分担を定め、両者の協働で進める活動である。本制度の特徴は、道路の清掃や草刈、花壇等の草花の維持管理といった環境管理だけでなく、道路の簡易補修やガードレールの塗装などの機能維持にもアダプト制度を適用、実施している点である。市内の自治会、学校、企業等の多様な主体が参加している。

市の役割: 活動に必要なスコップ、軍手、ほうき、簡易補修
合材、プランターボックス等の提供
活動団体名等を記した看板の設置
傷害保険への加入

活動参加者数: 延べ770名(平成19年2月末現在)

●経緯:

地域住民に身近な道路は、市が道路清掃、美化などの維持管理を行なってきたが、ゴミの投げ捨て等が後を絶たず、厳しい財政状況の中、行政も限界を感じていた。また、地域住民からは、自分たちの使う道路は自分たちできれいにしたいという思いから、道路の清掃や草花の植栽などの自主的な取組も行なわれてきていた。そこで、平成18年度から 磐田市アダプトロード制度(現: 磐田市まち美化パートナー制度)を導入し、市民と行政との協働により道路(現在は公共施設全域)の美化・機能維持を進めることとなった。(平成17年度から試行を始め、平成18年度に本格的に導入を開始した。)

ポイント

- 住民自治組織や住民の意識が「新たな公」の下地
 - 自治組織がしっかり機能しているため、アダプト合意による道路の簡易舗装などが円滑に実施できている。
 - 地域住民自身が「全てを行政に任せきりにするのではなく、地域住民自身もできることは貢献し、その上で、行政に実施してもらいたいものがあれば意見を伝えていく」という姿勢を有している。
- 地域住民のニーズと行政側のメリットがうまく一致して協働を推進
 - 地域住民自身のニーズ(軽微な道路補修を市に要望に行くのは非効率、自分達で実施したいという思い)が満たされ、行政側のメリット(道路補修の人手やコストが削減されて済む)も発生するという、win-winの関係がこの取組がうまく進行している一因である。
- 担い手と行政との日常的な協働により良好な関係が構築
 - アダプトロード活動により普段から行政と協働していることにより、日常的なコミュニケーションが図られているため、今後地域で何か課題が発生した時にも行政に相談しやすい関係が構築されている。
- 活動が生んだ近所づきあいへの良好な波及効果
 - アダプト活動への参加は地域住民の協働作業を発生させ、これは近所づきあいの上でも良い効果がある。
- 地域貢献に対する企業の高い意識
 - 地域の中で仕事をさせてもらっているのだから、一年のうち数日、地域のためにできることをやることはいいことではないか、という考えで、社員一同、積極的に同活動に取り組んでいる。『活動による地域からの認知が自社への評価につながり、その評価が、社員自体のやる気にもつながる』といった地域貢献に対する企業の高い意識が活動を推進している。



看板(アダプトサイン)の例



道路の簡易補修マニュアル(抜粋)

(以上、写真および資料提供: 磐田市道路河川課)

④
アスファルト合材を穴に
均等に敷き均す

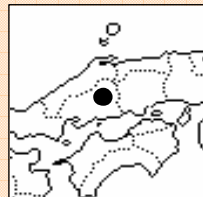
「ながの村」と行政との協働による都市交流事業の展開

広島県神石高原町

団体概要

平成19年2月現在

団体名	ながの村
構成員	構成員：240人 サービス利用者：5,200人
設立時期	平成3年 設立当初名称：永野を考える会 (平成13年4月「ながの村」に名称変更)



ふれあいセンターながの村」の概観

活動概要

- 活動開始時期：平成3年
- 活動内容：

集落の地元有志により結成された「ながの村」は、交流人口の増加を核とした地域活性化を目指し、以下のような活動を行なっている。

ふれあいセンターながの村」の管理運営
各種交流事業の実施

 - ・同センターに宿泊する地域内企業の外国人研修生や福山市の大学生等と地域住民との交流
 - ・「下帝釈峡コンサート」の開催(年1回)
 - ・下帝釈を訪れるロック・クライマーと住民との協働クリーンアップイベント ほか
- 経緯：

平成3年、過疎・高齢化等による集落機能の低下に危機感を抱いた地元有志が、集落の維持を目的としたむらおこしグループ「永野を考える会」を結成した。同グループでは「幻の鍾乳洞*」を発見し、国定公園帝釈峡をはじめとした自然環境を貴重な地域資源として位置づけ、都市との交流による地域活性化を目指したグリーンツーリズム構想を策定した。この構想を基に、地域資源の発掘や「下帝釈峡コンサート」などのイベントの開催を行ってきた。その後、地域の小学校の廃校を受け、平成11年度に廃校を改装した交流活動拠点「ふれあいセンターながの村」を行政が整備し、平成13年度からは同施設の管理・運営を行う

ようになった。平成16年度より、以上のような地域住民の自主的な活動や組織の総称を「ながの村」とし、現在に至っている

* 幻の鍾乳洞とは、1929年の広島県の調査記録には存在が載せられていたが、その後、場所の特定ができず、長年忘れられていた鍾乳洞である。1992年、「永野を考える会」のメンバーが鍾乳洞を探していたところ、入り口を発見し、記録に残されていた鍾乳洞であることを確認した。

ポイント

- 大学との連携による活動主体側の担い手確保のメリットと研究対象としての大学側のメリットが共存
 - ・「ふれあいセンターながの村」村長の人的ネットワークを活用し、平成17年から福山平成大学の学生をながのむら自治振興会の運動会に招待し、活性化を図っている。また、比治山大学の先生が平成17年以降毎年、学生を30人程連れて現地研究に来訪するようになった。地域住民による活動発表や大学生との意見交換会などにより、交流が行なわれている。これにより、活動主体側は大学生を担い手として確保でき、大学側は、現場での研究活動により学生がいきいきと研究する、という双方のメリットが生じている。
- 外国人研修生の受入を通じた地域住民との交流機会の創出
 - ・外国人研修生を「交流センターながの村」に受け入れており、研修生への食事提供を女性グループが行なうなど、研修生とのふれあいが住民の楽しみとなっている。
- 多様な担い手が参加した地域新聞の発行
 - ・毎月、地域新聞「ながの村」を発行しているが(インターネットでも閲覧可)、地域のお年寄りによる寄稿等、多様な担い手が参加しており、地域内の情報交流、地域外への情報発信を行なっている。



「下帝釈峡コンサート」のようす



ながの村運動会
(以上、写真提供：ながの村)

NPO法人「伊万里はちがめプラン」が中心となった生ゴミの堆肥化による循環型地域社会の形成

佐賀県伊万里市

団体概要

平成19年2月現在

団体名	NPO法人「伊万里はちがめプラン」
構成員	構成員 300人 サービス利用者 300人 賛助会員等 30人15団体
設立時期	平成9年4月 (法人格取得年月 平成15年5月)

(注) サービス利用者 = 構成員



生ゴミ堆肥化プラント

活動概要

- 活動開始時期: 平成4年4月

- 活動内容:

NPO法人伊万里はちがめプランが中心となり、飲食旅館組合、食品関連事業所や、住民、地域の農家、佐賀大学等と連携し、生ゴミ→堆肥化→有機農産物→食卓→生ゴミという地域循環型社会を形成している。

同法人は、地域の生ゴミを回収・運搬し、プラントで堆肥化、さらにその堆肥を販売するというルートを確認している。

活動参加者: 伊万里市内の220世帯および64事業者(平成19年2月末現在)

生ゴミの回収・堆肥化費用: 500円/世帯/1ヶ月(事業者は別)

また、活動内容を拡大し、市民と農業者との協働による、休耕地を活用した菜の花栽培と菜種油の生産、廃食油のBDF化も行なっている。

- 経緯:

レストラン経営を行なう福田氏(現NPO法人伊万里はちがめプラン代表)が、大量に出る生ゴミの焼却処分に疑問を感じ、飲食旅館組合、食品関連事業所や地域の農家等に呼びかけ、生ゴミ→堆肥化→有機農産物→食卓→生ゴミという循環型地域社会の構築を目指し、取組を開始した。

ポイント

- 活動資金の提供は活動への参加形態の一つ

・生ゴミの回収・堆肥化費用として、活動に賛同・参加する個人から毎月500円の費用負担を得ている。これは、サービス利用者であり、かつ活動の参加者であるという意識で費用負担が行なわれている。

- 複数の活動による資金のやりくり

・資金を確保しているだけでなく、堆肥販売も行なうなど、複数の活動資金確保手段を有している。

- 大学の活用による外部評価や担い手の確保(活動主体)と、研究対象としての活用(大学)という活動主体と大学の双方のメリットが協働を促進

・佐賀大学との連携により、生ゴミからつくる堆肥の品質向上や、施肥の効果に関する共同研究を行なっており、大学側にも研究対象としてのメリットが生じている一方、活動主体にとっては大学生の参加により担い手が確保できる、堆肥の品質について外部評価を得られる、活動に対する誇りの醸成にもつながるなどのメリットが生じており、双方のメリットが協働を促進していると考えられる。

- 民間助成金や個人等からの寄付の獲得

・これまでに(独)環境再生保全機構などの民間助成金を獲得したり、市民等からの寄付を獲得して生ゴミ堆肥化プラントを建設したり(総費用4,000万円のうち1,000万円が寄付)、民間資金を有効に活用している。

- 活動の継続・深化に伴う活動目的と意識の変化

・当初は行政の効率化、負担軽減を主目的としていたが、現在では地域経済の活性化を主目的とし、環境保全活動に対する市民の意識の向上という新たな活動目的も加わっている。

- ・佐賀大学との協働状況

当該活動を担うべき主体について、当初は行政が行なうべきだと考えていたが、現在では行政と食品関連事業者、市民を含む多様な主体の連携により担うべきだという意識に変化している。



図 伊万里はちがめプランの仕組み

佐賀大学との協働状況

(以上、図および写真: NPO法人「伊万里はちがめプラン」ウェブサイトより)

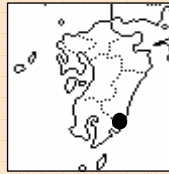
「南那珂まるごと自然博物館推進協議会」による地域資源を活用した広域連携プロジェクト

宮崎県日南市 串間市 北郷町 南郷町

団体概要

平成19年2月現在

団体名	南那珂まるごと自然博物館推進協議会
構成員	構成員： 100人 活動を金銭的に支援する団体： 22団体
設立時期	平成15年4月



地域プロジェクト(自然体験)

経緯

平成13年頃、社会全体として地域が持つ魅力や特性を生かした個性豊かな地域づくりが重要視されるようになり、南那珂地域においても、亜熱帯植物など南国特有の自然景観、「山幸彦・海幸彦」の神話などの歴史文化、黒潮で育まれた豊かな水産資源、果物や花などの地域資源を活用した地域づくりの必要性が高まってきた。そこで、南那珂圏域自治体、地域づくり団体、宮崎県等が一体となり、住民と行政との協働により地域資源全体をエコミュージアムとして活用する構想「エコミュージアム南那珂まるごと自然博物館」の実現に向けた活動が開始した。平成14年度には戦略的かつ具体的なプロジェクト実施に向け、圏域内住民を中心としたワーキンググループや検討委員会によりアクションプログラムを策定し、平成15年6月に、地域づくり団体代表者、宮崎県、南那珂圏域内自治体による「南那珂まるごと自然博物館推進協議会」が設立された。

活動概要

●活動開始時期：平成15年10月

●活動内容：

「南那珂まるごと自然博物館推進協議会」は、行政が事務局を担当し(平成19年2月現在の事務局は日南市企画政策課)、活動は民間が主体となって実施する仕組みである。

以下のような活動を行なっている。

各地域プロジェクトの実施

- ・各地域における自然体験活動：地域住民による案内人の担当、情報発信等が行なわれている。
- ・活動の成果：これまで地域づくり活動がなかった地域において活動が芽生えた。

広域連携プロジェクトの実施

- ・全体研修会や全体交流会を実施し、エコミュージアムについての研修や、各地域づくり団体間の交流と情報交換を行っている。また、ホームページを開設し、各地域づくり団体の活動紹介や、イベントの情報発信等を行っている。

ポイント

●行政が資金面で各地域の活動を支援

- ・行政が事務局を担当して活動の資金面での支援を行ない、実際の活動は各地域の住民等、民間が主体となって実施している。

●行政が広域連携を促進

- ・行政が有するネットワーク等を活用し、各地域の広域連携を促進し、地域全体の活性化を推進している。



地域プロジェクト(農業体験) (資料提供：南那珂まるごと自然博物館協議会)

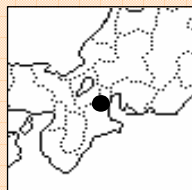
企画段階から難病患者やその家族が参加した「三重県 難病相談支援センター」

三重県

団体概要

平成19年2月現在

団体名	NPO法人「三重難病連」
構成員	構成員 2,855人 サービス利用件数 2,191件 賛助会員等 14団体
設立時期	平成18年 5月



三重県難病相談支援センター入口のようす

活動概要

- 活動開始時期: 平成18年5月
- 活動内容:
 - 「三重県 難病相談支援センター」は、設置の企画段階から難病患者やその家族が参加した県の施設である。三重県の委託によりNPO法人「三重難病連」が管理運営しており、難病患者や家族に対する各種相談や就労支援等を行なっている。活動内容は以下の通りである。
 - 難病患者・家族に対する各種相談支援事業
 - 電話や面談等による療養や日常生活における個別・具体的相談への支援
 - 各種公的手続き等による支援
 - 生活情報の提供(住宅・就職・アルバイト・公共サービス等の情報提供)
 - 地域交流会などの推進
 - 患者会や患者・家族交流会、学習会などの開催への支援
 - 医療関係者等も交えた意見交換会やセミナー等の活動への支援
 - ボランティアの養成・育成等
 - 難病患者に対する就労支援
 - 公共職業安定所、障害者雇用支援センター等との有機的連携による雇用相談支援、助言・援助
 - 雇用に関する各種情報の提供

情報提供

会報、チラシの作成・情報の発信、掲示・図書、資料の閲覧・センター登録者への行事案内
 難病相談支援員の配置
 その他(既存の難病施策との有機的な連携など)

●経緯:

三重県は「難病支援相談センター」の設置にあたり、きめ細かなサービス提供の実現を目指し、企画段階から三重県難病団体連絡協議会を中心とした難病患者やその家族と協働で、同センターの活動内容の検討を開始した。その後、同センターが平成17年度に開設され、三重県からの委託によりNPO法人「三重難病連」が管理運営を行なうこととなった。

ポイント

- 活動の企画段階当初から難病患者やその家族と行政とが協働
 - ・「三重県難病相談支援センター」設置の企画段階から、難病患者やその家族と行政とが協働し、きめ細かなサービスの提供を実現している。
- 行政事業として行政職員とNPO職員が同席常駐協働するなど円滑な調整
 - ・「三重県難病相談支援センター」の運営支援は県職員の業務の一つであるため、1年目は県職員が常駐して関係機関との調整等を行なうなど、活動当初の重点的な人的支援を行なった。
 - ・活動開始直後は、活動の担い手と関係者との間の意思疎通が不十分であったり、指示命令系統の不備等から関係者に謝りに行くこともあったが、その際、県の担当者が同伴して事なきを得た。県が有するネットワークを活用し、円滑な関係者間調整を図った。
 - ・行政は、活動の担い手が本業の仕事終了後に出席できるよう、会議を夕方に設定するなどの配慮を行なった。



相談コーナーのようす
 (以上、写真提供: NPO法人三重難病相談支援センター)

「朝倉台安心・安全ネットワーク」によるコミュニティバス試験運行に関する行政との協働

奈良県桜井市

団体概要

平成19年2月現在

団体名	朝倉台 安心・安全ネットワーク
構成員	構成員： 3,100人 サービス利用者： 3,100人
設立時期	平成17年 6 月



コミュニティバスの概観
(写真：桜井市ウェブサイトより)

活動概要

- 活動開始時期：平成16年9月
- 活動内容：朝倉台安心・安全ネットワーク」は、コミュニティバスの運行に関し、行政と住民とのつなぎ役を担っている。具体的には、以下のような活動を行なってきた。

■運行開始前

コミュニティバスの運行実現に向け、独自のアンケート調査を実施し要望を行なっただけでなく、その後の準備期間中、市と地元との調整役として機能した。

■運行開始後～現在

以下の取り組みを行ない、地域が一丸となったコミュニティバスの運行継続に取り組んでいる。

利用状況調査の企画・実践と市への報告

利用状況調査を企画・実践してデータ収集を行ない、今後のバス運行の方向性を決定する上での貴重な資料を市に提供している。地域住民に向けて、バス利用の促進を呼びかけている。

●経緯：

桜井市では、奈良交通(株)の路線バスの運行休止に伴い、地域住民に対し公共交通に関するアンケート調査を実施するなど今後の交通体系について検討を行っていた。一方、朝倉台地域には、地域の福祉対策推進を目的とし、自治会・民生児童委員・福祉員・ボランティア団体

等が一緒になり立ち上げた「朝倉台安心・安全ネットワーク」が存在していた。そこで、市によるアンケート調査をきっかけに、同団体が朝倉台地域独自の「団地内循環バス導入調査」を実施し、調査結果を市へ提出するとともにコミュニティバスの運行を要望した。これをもとに市が公共交通活性化協議会内で検討し、平成17年10月より桜井市コミュニティバス朝倉台線の運行を開始した。

ポイント

●団塊の世代等定年退職者の活用

- ・最近まで会社勤め等により現役で働いていた定年退職者は、高い技術や能力を有しており、「新たな公」の担い手として質の高い人材である。同地区では定年退職者を活動に巻き込み、有効に活用している。

●自治意識(自らの地域のことは自らで)が原則

- ・具体的に自分たちでできることを明示し、行政にしかできないことは願ひするというスタンスで協働を進めてきている。行政へ要望ばかりするのではなく、まずは自分たちの地域のことは自分たちで何とかするという姿勢が第一原則だという考えで、活動を行なっている。

●協働のための共通認識・共通目標の構築

- ・行政、住民、住民グループが同じ目線を持ち、「地域をよくしたい」というひとつの目標に向かってそれぞれにできることを進め、ともに知恵を出して汗をかいているうちに互いの信頼関係が築かれる。住民と市の職員がともに汗をかき、苦勞して一緒に考えたコミュニティバスなので、双方に何とか守っていかなければ...という愛着がわいている。

●自らの提案・開始による取組が継続的な各種活動につながる

- ・住民自らが提案・開始した取組であるため、住民の間で同取組を継続させようという意識が高まり、利用状況調査やバス利用促進の呼びかけなどの各種活動につながっている。

課題

●他地域の情報収集を効果的に行なうための人的ネットワークが必要

- ・取組を進める中で、他地域ではどのようにしているのか知りたかったが、行政に聞いても情報がなく困難であった。他地域の情報収集を効果的に行なうためには人的ネットワークの構築が必要である。

- 各自の取組が、Web上で公開される仕組みで国民の関心を高める。

国土のモニタリング

[国土のモニタリングとは](#)[分析集・分析ツール](#)[みんなの国土マップ](#)[リンク集](#)

国土のモニタリングとは

- [・目的](#)
- [・役割](#)
- [・モニタリング対象](#)
- [・実施例](#)

分析集・分析ツール

- [・多様な広域ブロックが自立的に発展する国土](#)
- [・美しく暮らしやすい国土](#)
- [・戦略1 シームレスアジア](#)
- [・戦略2 持続可能な地域](#)
- [・戦略3 災害に強い国土](#)
- [・戦略4 美しい国土](#)
- [・戦略5 新たな公](#)
- [・経済社会情勢の大転換](#)
- [・国民の価値観の変化・多様化](#)
- [・国土をめぐる状況](#)
- [・国土の現状](#)
- [・分析ツール](#)
- [・統計地図作成ツール](#)

みんなの国土マップ

- [・地域づくりマップ](#)
- [・投稿フォーム](#)

みんなの国土マップ投稿フォーム

国土形成計画では、戦略的目標の1つとして「新たな公」を基軸とする地域づくりを掲げております。ここでは、「新たな公」による地域づくりの事例が誰でも投稿できます。

活動概要

- 団体名
- 活動分野
- 活動概要(300文字以内)
- 活動写真
 [参照...](#)

投稿者情報

- お名前
- 性別 ☐ 男性 ☒ 女性
- 年齢
- 職業
- 住所
- メールアドレス

投稿する



国土のモニタリング

国土のモニタリングとは

分析集・分析ツール

みんなの国土マップ

リンク集

国土のモニタリングとは

- ・目的
- ・役割
- ・モニタリング対象
- ・実施例

分析集・分析ツール

- ・多様な広域ブロックが自立的に発展する国土
- ・美しく暮らしやすい国土
- ・戦略1 シームレスアジア
- ・戦略2 持続可能な地域
- ・戦略3 災害に強い国土
- ・戦略4 美しい国土
- ・戦略5 新たな公
- ・経済社会情勢の大転換
- ・国民の価値観の変化・多様化
- ・国土をめぐる状況
- ・国土の現状
- ・分析ツール
- ・統計地図作成ツール

みんなの国土マップ

- ・地域づくりマップ
- ・投稿フォーム

リンク集

ここでは「国土のモニタリング」分析集の出典元となる情報へのご案内します。国土のモニタリング分析集ではご紹介できなかった、身近な地域レベルのデータ等が確認できます。

国土形成計画の目指す将来の国土像

①多様な広域ブロックが自立的に発展する国土

■広域ブロック間比較

- 所得状況: [内閣府「県民経済計算」](#)
- 雇用状況: [厚生労働省「職業安定業務統計」](#)
- 人口状況: [総務省「国勢調査」](#)「住民基本台帳人口移動報告」
- 各ブロックの海外との交流状況
- 出国者状況: [法務省「入国管理統計」](#)

②美しく暮らしやすい国土

- 生活満足度: [内閣府「国民生活に関する世論調査」](#)

国土形勢計画の前提となる社会経済情勢・国土の現状

■人口減少・高齢化の進展

- 人口・高齢化: [国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」](#)

■グローバル化の進展、東アジアの経済発展

- 貿易状況: [財務省「貿易統計」](#)

■情報通信技術の発展

- 情報通信基盤: [総務省「情報通信統計データベース」](#)

■国民意識の方向性

- 国民意識: [総務省「社会意識に関する世論調査」](#)

将来の国土像を実現するための5つの戦略的目標

①東アジアとの円滑な交流・連携

■東アジアネットワーク型産業の産業最適化における我が国産業の強化

- 貿易状況: [独立行政法人経済産業研究所「RIETA-TID2006」](#)